

序章

この度の2002年版持続可能性報告のガイドライン（以下、ガイドライン）の完成は、組織として、また報告書の枠組みとして、GRIの発展において記念すべき出来事であり、GRI理事会はこれを心からの喜びとしています。組織的な観点で言えば、GRIが新しい組織となってから初めての、発行、試行、見直し、修正という一連のサイクルの始まりとなりました。持続可能性報告という観点では、この2002年版ガイドラインは、多くの人々からのご協力を得ながら2年間におよぶ改訂作業の集大成であり、2000年6月に発行されたガイドラインと比較しても、厳密さ、質ともに大幅な改善が見られています。しかし同時に、GRI理事会では、このガイドラインもまだまだ“発展途上”にあると考えています。GRIは「実践を通して学ぶ」ことを基本精神としており、これからも進化を続けていきます。このガイドラインを利用することで得られる教訓が、今後の改善において最良の指標となることを確信しています。

GRIは、1997年に米国の非営利組織であるセリーズ（CERES: Coalition for Environmentally Responsible Economies）（「環境に責任を持つ経済のための連合」）と国連環境計画との合同事業として、持続可能性の報告書における質、厳密さ、利便性の向上を目的として発足しました。その際、企業、非営利の提言組織（NGO）、会計士団体、投資家機関、労働組合などから精力的な支援やご協力を頂きました。多様な支援者、支援団体の皆さま（以下、多様なステークホルダー）と共に、全世界で適用可能な報告書ガイドライン作成のための合意形成に取り組んできました。

「GRI 持続可能性報告のガイドライン」の第一版は、1999年に「公開草案」として発表され、試行および一般からの意見をもとに、GRIは2000年6月にガイドラインを発行しました。その後まもなく改訂作業が始められ、2年間にわたり続行した作業が、この半年間で集結されました。世界中のステークホルダーからの幅広い意見は、改訂作業に大きく貢献し、すべての意見は慎重に吟味、厳選され取り入れられました。寄せられたすべての意見を新しいガイドラインに反映させることはできなかったものの、次回の改訂に向け、引き続き皆様からのご協力を頂きたいと思っています。